

ACTA  
UROLOGICA  
JAPONICA

# 泌尿器科紀要

Acta  
Urologica  
Japonica

Vol. 50, No. 2 February 2004

---

# ACTA UROLOGICA JAPONICA

---

*Editor Emeritus* : Osamu YOSHIDA

---

*Editor* : Osamu OGAWA

*Deputy Editor* : Shingo YAMAMOTO

---

*Advisory Committee*

Susumu KAGAWA  
Takashi KURITA  
Shin-ichi OHSHIMA

Sadao KAMIDONO  
Masaru MURAI  
Taiji TSUKAMOTO

Tadaichi KITAMURA  
Seiji NAITO  
Hidetoshi YAMANAKA

---

*Associate Editors*

Hideyuki AKAZA  
Katsusuke NAITO  
Tsuguru USUI

Shiro BABA  
Akihiko OKUYAMA

Haruo ITO  
Hiroyuki SHIMA

---

*Editorial Board*

Yoichi ARAI  
Takashi DEGUCHI  
Masato FUJISAWA  
Momokazu GOTOH  
Eiji HIGASHIHARA  
Kiyotaka HOSHINAGA  
Mikio IGAWA  
Yoshiyuki KAKEHI  
Hiroshi KANAMARU  
Mutsushi KAWAKITA  
Kenjiro KOHRI  
Atsuo KONDO  
Masaaki KUWAHARA  
Tetsuro MATSUMOTO  
Tsuneharu MIKI  
Masayuki NAKAGAWA  
Yasunori NISHIO  
Yoshihide OGAWA  
Yusaku OKADA  
Seiichiro OZONO  
Taizo SHIRAIISHI  
Yoshifumi SUGITA  
Mineo TAKEI  
Ken-ichi TOBISU  
Shoichi UEDA  
Hirohiko YAMABE  
Masayoshi YOKOYAMA

Yoshiaki BANYA  
Shin EGAWA  
Junnosuke FUKUI  
Tomonori HABUCHI  
Yoshihiko HIRAO  
Tomohiko ICHIKAWA  
Kyoichi IMAI  
Hidehiro KAKIZAKI  
Hiroshi KANETAKE  
Nobuo KAWAMURA  
Takuo KOIDE  
Yoshinobu KUBOTA  
Zenjiro MASAKI  
Masahiro MATSUSHIMA  
Ikuo MIYAGAWA  
Tatsuya NAKATANI  
Osamu NISHIZAWA  
Hiroshi OHE  
Tetsuro ONISHI  
Kenji SHIMADA  
Taro SHUIN  
Koji SUZUKI  
Hideo TAKEUCHI  
Hiroshi TOMA  
Michiyuki USAMI  
Satoshi YAMAGUCHI  
Osamu YOKOYAMA

Eitetsu BOKU  
Tomoaki FUJIOKA  
Hideki FUSE  
Masamichi HAYAKAWA  
Shigeo HORIE  
Tatsuo IGARASHI  
Nobuhisa ISHII  
Toshiyuki KAMOTO  
Yoji KATSUOKA  
Taketoshi KISHIMOTO  
Munekado KOJIMA  
Hiromi KUMON  
Tadashi MATSUDA  
Hideyasu MATSUYAMA  
Yoshinori MORI  
Mikio NAMIKI  
Katsuya NONOMURA  
Kenji OISHI  
Yoshinari ONO  
Toshiaki SHINKA  
Yoshiki SUGIMURA  
Masayuki TAKEDA  
Toshiro TERACHI  
Yoshihiko TOMITA  
Kenji WAKAI  
Kosaku YASUDA  
Tatsuhiko YOSHIKI

---

*Managing Editor* : Takehiko SEGAWA, Takeshi TAKAHASHI

*Language Editor* : Sumiko KAIHARA

*Secretary* : Tetuo NAKAI

(2004.1.)

---

## 購読要項 (2004年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 一般会員は年間予約購読料10,000円(送料とも)を前納する。賛助会員は20,000円(送料とも)とする。払込みは郵便振替に限る。口座番号 01050-9-4772 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ泌尿器科紀要刊行会宛、はがきか FAX にて申し込めば所定の用紙を送付する。

## 投稿規定 (2004年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
  2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。原著、症例報告などは他の雑誌に発表されたことのない内容でなくてはならない。
    - (1) 総説、原著論文、その外の普通論文の長さは、原則として、刷り上がり本文5頁(400字×20枚)までとする。
    - (2) 症例報告の長さは、原則として、刷り上がり本文3頁(400字×12枚)までとする。
    - (3) 和文原稿はワープロを使用し、B5またはA4判用紙に20×20行、横書きとする。年号は西暦とする。文中欧米語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め(ただし、文節の始めにくる場合は大文字)、明瞭に記載する。
      - (イ) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名(教授、部長、院長、科長、医長など)、著者名の順で和文で記載する。筆頭者名と、2語以内の running title を付記する。  
例：山田、ほか：前立腺癌・PSA
      - (ロ) 和文の表紙、本文とは別に、英文標題、英文抄録をつける。標題、著者名、所属機関名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文(250語以内)の順にB5またはA4判用紙にダブルスペースでタイプする。別に抄録本文の和訳を添付する。ワープロ原稿可。
      - (ハ) 原稿は、和文標題、英文標題、英文抄録、その和訳、緒言、対象と方法、結果、考察、結語、文献、図表の説明、図、表の順に配置し、原稿下段中央部に和文標題ページを1とするページ番号を付ける。
    - (4) 英文原稿はA4判用紙にダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、Key words(和文に準ず)、running title(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録本文の順に記した和文抄録を英文原稿の後に添付する。和文原稿と同様にページ番号を付ける。
    - (5) 図、表は必要最小限にとどめ、普通論文では図10枚、表10枚まで、症例報告では図5枚、表3枚までとする。  
図、表、写真などはそれぞれ台紙に貼付し、それらに対する説明文は別紙に一括して一覧表にする。説明文は英文とする。原稿右欄外に挿入されるべき位置を明示する。写真はトリミングし、図・表は誤りのないことを十分確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい。様式については本誌の図・表を参照する。写真は明瞭なものに限り、必要なら矢印(直接写真に貼付)などを入れ、わかりやすくする。
  - (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所に引用文献番号を入れる。文献番号は本文の文脈順に付すこと(アルファベット順不可)。その数は30までとする。  
例：山田<sup>1,3,7)</sup>、田中ら<sup>8,11-13)</sup>によると…  
雑誌の場合 — 著者名(3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする)：標題、雑誌名、巻：最初頁-最終頁、発行年  
例 1) Kälble T, Tricker AR, Friedl P, et al.: Ureterosigmoidostomy: long-term results, risk of carcinoma and etiological factors for carcinogenesis. *J Urol* **144**: 1110-1114, 1990  
例 2) 竹内秀雄, 上田 眞, 野々村光生, ほか：経皮的腎碎石術(PNL)および経尿道的尿管碎石術(TUL)にみられる発熱について。泌尿紀要 **33**: 1357-1363, 1987  
単行本の場合 — 著者名(3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする)：標題、書名、編集者名(3名まで、それ以上のときは「ほか」「et al.」とする)、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年  
例 3) Robertson WG, Knowles F and Peacock M: Urinary mucopolysaccharide inhibitors of calcium oxalate crystallization. In: *Urolithiasis Research*. Edited by Fleish H, Robertson WG, Smith LH, et al. 1st ed., pp. 331-334, Plenum Press, London, 1976  
例 4) 大保亮一：腫瘍病理学。ベッドサイド泌尿器科学、診断・治療編。吉田 修編。第1版, pp. 259-301, 南江堂, 東京, 1986
  - (7) 投稿にあたっては、本誌を十分参考にして体裁を守ること。
  - (8) 原稿は、オリジナル1部とコピー2部(図、写真は3部ともオリジナル)を書留で送付する。万一にそなえて、コピーを手元に控えておくこと。  
(原稿送付先) 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 泌尿器科紀要刊行会宛
3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や試験論文については編集部で採否を決定する。

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editorの責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MOディスク・CD-R・CD-RWのいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windowsの場合はMS-Word・一太郎、またMacintoshの場合はEG-Word・MS-Wordとし、特にMacintoshにおいてはMS-DOSテキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
  - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
  - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
  - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

#### Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.  
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

### 編 集 後 記

京都大学医学部では今年の入学試験から面接を導入した。入試に面接を導入していない医学部は、昨年の時点で熊本大学と京都大学のみであったと聞いている。導入に当たっては、その利点欠点をいろいろな大学に問い合わせ、また入試面接に歴史のある大学を訪問して直接意見をうかがってもみた。面接のやりかたや評価方法には各大学で様々な特徴があり、面接の功罪に関しても大学間で異なった意見があった。

それらの意見を参考に京大医学部史上初めての入試面接が行われたのだが、その内容はたいそう興味深いものであった。まず、一般に言われているように、多少とも人生経験の豊富な社会人や女性の面接点が高い。「おほこい」男子高校生は、少し頼りなく柔軟性に欠けるような印象をうける場合が多いようだ。30年前の自分を振り返っても、医学部教授の前で好印象を与えるような気の利いた受け答えなどとうてい出来なかったと思う。その点、女子高校生は違う。自分の意見を堂々と、時には笑みを浮かべながら快活に話す。教授を煙にまくことなど朝飯前といった様子であった。

面接の大きな目的のひとつは、医師としての適性に欠ける受験生に「お引き取りいただく」ということである。実際の面接でもお引き取りいただいたほうが良いと思われる何人かの受験生が気にかかった。ただ問題は面接官によってその印象が大きく違うことである。面接官の教授自身にしても、もし面接を受けたら「お引き取りいただく」ことになる可能性が高い。

(小川 修)